

2024年  
vol.90

金 沢 脳 神 経 外 科 病 院 通 信

# クローバー

## 地震と桜と診療報酬改定

病院経営に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症が5類となり、ようやく落ち着きを取り戻しつつある中、迎えた令和6年の元旦、能登半島を中心に、今度は全く違う形の災害に見舞われました。

正月休みで、能登の実家に帰省中経験したことのない大きな揺れに襲われました。実家は海辺だったため津波を警戒し、崩れ落ちた玄関の土壁の下から靴を引っ張り出して高台の神社に両親を連れて逃げました。近所の人たちも続々と登ってきます。見下ろすと海はどんどん沖の方に向かって引いていき海底が露わになっています。間もなく津波が押し寄せてこの辺りは水浸しになるものと息を飲み見守ります。ところが1時間経っても2時間経っても津波は来ません。引いたままの海の水は戻ってくることはなかったのです。4mも陸が隆起したためだと知ったのは何日か後のことです。当日は避難所の床で、翌日は車の中で2日間一睡もできないまま、3日目に金沢に戻ることができました。病院では入院患者さんや職員に大きな被害がなくほっとしました。

さて、2年毎の診療報酬改定の時期がやってきました。4月ではなく6月施行とのこと。今回改定では、物価・人件費増対応と医療DX推進の2つが大きな特徴です。働き方改革や職員の処遇改善、業務効率のためのICT活用など、

最近の流れに沿ったものになっています。さらに入院料の通則に新たに「意思決定支援」と「身体拘束最小化」の基準が設けられました。高齢の入院患者割合が増加しており、「人生の最終段階において、どのような医療・ケアを受けたいか、逆に受けたくないのか」、患者自身の考えに基づいた医療・ケアの提供が極めて重要となっています。また、入院医療の場では、少なからず「身体拘束」が行われており、患者のADL・QOLを著しく低下されていることなどを踏まえた改定内容になっています。これまで以上に介護との連携も重要となります。



事務局長  
酒谷 一成

あの日から3か月が経過し、毎週のように能登に通っています。倒壊したり傾いたりした家屋がそのままの街並みはほとんど変わっていないように見えますが、能登に向かう沿道には満開の桜が続きます。壊れた道路やライフラインの復旧、仮設住宅の建設など少しずつ前に進んでいます。県内外の多くの団体・関係者の皆さんに心から感謝です。恐ろしいコロナや震災が来ようと、厳しい診療報酬改定があろうと、今年も春が来てまた桜がきれいに咲いています。

# 日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)の活動に参加

## はじめに

能登半島の一連の地震のためお亡くなりになられた方に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方におきましては、心よりお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。

## JRATのロジ活動

JRATでは、石川県理学療法士会で理事として活動していることもあり、私の主な支援活動は、県庁本部や石川本部での情報収集、連絡、調整などのロジ活動であります。石川本部では、おもに活動報告書の不備の訂正や電話やラインを利用した情報の記録等の事務を担当しました。to do リストのチェックなど慣れない事も多かったですが、研修を積み震災支援活動を経験された方に教えてもらいながら、少しずつロジでの作業を覚えていきました。このような裏方の後方支援活動が特に大切であり、このことは、自分自身貴重な経験になっております。

(ロジの写真 図1)



図1 石川本部(石川県リハビリテーションセンター)でのロジ活動

## 1.5次避難所で起こる生活不活発病

今回の地震で石川県は、地震直後に被災者が身を寄せる体育館や公民館は「1次避難所」、余震などを考慮して少し離れた大型施設などに設けているのが「1.5次避難所」、ホテルや病院、福祉施設など生活や介護の環境が整った施設は「2次避難所」と位置づけました。1.5次避難所は、2次避難所のための仮の避難所として2,3日の滞在と想定されていたようですが、3月12日の時点では、30日を超える方が8割います。そのため、1.5次避難所では、避難所生活の長期化により要介護の状態となっており、生活習慣病が深刻な問題になっています。

## いしかわ総合スポーツセンターでの支援活動

JRATの避難所での支援活動は、輪島、珠洲・能登町、七尾、志賀・富来、穴水、小松、金沢です。金沢では、いしかわ総合スポーツセンターなど3か所(現在は、同センターのみ)の1.5次避難所(図2)で被災者の支援活動を行っています。



図2 テントが並ぶ1.5次避難所(いしかわ総合スポーツセンター)



図3 テントでの閉じこもり屋外歩行練習

金沢脳神経外科病院リハビリテーションセンター（以下、リハセンター）のリハ従事者は、主に1.5次避難所での活動を中心に行っています。現在も支援継続中ですが、当院のリハセンターの1月12日～3月15日までの2か月間のJRAT支援活動状況に関しては、療法士からは理学療法士8名、作業療法士8名、言語聴覚士2名計18名、支援合計日数82日の支援活動であります。実際に私も2日ほど支援活動を行っています。テント生活は狭すぎ、スポーツセンターは広すぎて、転倒・転落が多く起こっています。また、生活に目的が見いだせないために不活動になり生活習慣病の問題が起こっています。さらに、避難所でのコロナが発生して、そのために廃用性の機能低下が起こってきます。

我々支援者は、テントでの閉じこもり生活を防ぐため、集団体操や屋外歩行練習（図3）などを行っています。また、テントの入口が浮いて、出入りですま先が引っかかる方には、養生テープを利用し、段差を解消するように整備しました。（図4）また、足腰が弱くなっており、ベッドから容易に立ち上がれない人は、

タッチアップ式の手すりを横に配置しました。（図5）

今回、リハビリ従事者のマンパワー不足が痛感されました。病院内では、日々の個別リハビリテーションにより、立ち上がりや歩行練習、徒手的な関節運動や筋力増強運動がきめ細かく対応可能です。しかし、避難所支援は、限られたマンパワーのため自主体操や集団体操や介護士さんとの連携により、多くの被災者の身体機能を維持向上する必要があります。少ない人材で最大限の効果を生み出すシステムと連携の構築が必要であると感じました。



### おわりに

今後も少しでも被災地の不安を和らげることができるよう、当院のリハセンターとしても出来る限りの支援活動を行い被災地の救済と復興支援に最大限取り組んで参りたいと考えております。皆様の安全と被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



生活を防ぐための



図4 テントの入口の段差を養生テープで解消する



図5 タッチアップ式の手すりを横に配置することにより立ち上がりをし易くする

※JRAT活動は4月12日で終了しました。



## 令和6年度 新入職員のご紹介

今年度は、看護師10名、介護福祉士1名、臨床検査技師1名、リハビリセラピスト6名、医療ソーシャルワーカー1名の計19名の新しい職員が入職しました。私たちは、患者さんにより適切な医療を提供するために一層の努力を続けてまいります。各職種の専門性を活かし、協力して業務に取り組んでいく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 皆さんに一言



#### 看護師

たかくわ ともか  
**高桑 朋花**

- この仕事を選んだ理由 自分が入院した時に看護師の姿に憧れ、自分も患者さんの心の支えになりたいと思ったからです。
- 皆さんに一言 未熟ではありますが、患者さんのニーズを考え常に寄り添えるよう日々笑顔で頑張ります。よろしくお願い致します。



#### 臨床検査技師

みなと かずや  
**湊 和也**

- この仕事を選んだ理由 母が看護師で、検査技師等の医療従事者についていくつか教えてもらっていました。その中でも検査技師の、細かな病変でも見逃さず信頼できる結果を報告し、治療やリハビリを円滑に進める補助をする姿に魅力を感じ、検査技師を目指そうと思いました。
- 皆さんに一言 検査技師は人と関わる機会が少ない仕事ですが、検体や電子カルテ等を通してその先にいる患者様、医師、看護師、リハビリに関わる先生方等を想像し、人の心に寄り添った検査ができるよう励んでいきたいと思っています。未熟ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

#### 作業療法士

きたがわしょうだい  
**北川 翔大**



- この仕事を選んだ理由 祖父が脳卒中になり、片麻痺で動けなくなった際、リハビリを行ったことで受傷前とほとんど変わらない状態で自宅復帰することが出来たことを知り、興味を持ったからです。
- 皆さんに一言 知識や経験が乏しいですが、先輩方や他職種の方々と共に連携を取り、私を通じて患者様が元気になれる様努めます。まだまだ未熟ですが、どうぞよろしくお願い致します。

#### 言語聴覚士

にしかわ し お  
**西川 秋桜**



- この仕事を選んだ理由 作業療法士をしている姉から言語聴覚士という職業を聞き興味をもち、言語のみではなく、食べる行為にも携わることができること知り、幅広い分より多くの患者さんを支えることができると思ったからです。
- 皆さんに一言 何事にも一生懸命取り組み、患者さんに信頼される言語聴覚士になれるよう頑張ります。皆様のご指導よろしくお願い致します。

病院  
理念

私たちは脳神経外科医療の専門家として十分な医療を提供し社会に貢献します。



医療法人社団 浅ノ川  
**金沢脳神経外科病院**

石川県野々市市郷町262-2  
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914  
<https://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第90号 発行:広報委員会  
2024年5月31日発行